

<<< JARL 信越地方本部 コンテスト委員会より >>>

今年もJA0-OSOならびにVHFコンテストにご参加いただき、ありがとうございました。
3月11日の東日本大震災、また翌日の長野県北部地震の被害に遭われた皆様には、心からお見舞い申し上げます。また、その直後に開催されたコンテストにもかかわらず、多くの局にご参加いただきましたことを、あらためて感謝申し上げます。

さて、例年どおり、皆様から寄せられているご意見について、また審査の際に検討された内容について、コンテスト委員会の見解をお伝えいたします。(これまでの委員会からのコメントもぜひ再読お願いいたします。)

・OSOコンテストの提出書類と減点について

このコンテストの規約は、電文を交換し一字一句ログに記入して提出するという、他とは大きく異なる点があります。そのため、提出書類についても一般のJARLコンテスト用紙ではなく、JARLログブックもしくは同様式での提出をお願いしています。電子ログでも「印刷して同様式になる」ことを条件に受け付けております。

「同じ様式」とは、「同じ記入項目が同じ順番で、同じ行列数で並んでいる」ことを基準として考えております。この基準を満たしていない書類については「様式違い」として減点の対象としております。OSOコンテストは、すべての交信について双方の局の記録を突き合わせ、またサマリーについても記入内容を厳格に審査しております。そのため、必ず指定の様式を厳守され、今一度見直しの上提出していただきますようお願いいたします。

なお、減点の内容につきましては、お問い合わせいただければ回答いたしますので、お気軽にご連絡ください。相手局の書類提出無しでも減点されますので、自分だけではどうにもならないところがありますが、これが規約ですのでご理解のほどお願いいたします。

・OSOコンテスト参加中の運用地変更について

コンテスト参加中に常置場所と移動運用を併用された局があり、当然移動運用時は「/φ」をコールサインに付加し、常置場所からの運用は付加しないという運用をされていました。そのため、提出書類でその点が明確にされていないと、コールサインの「/φ」有無で減点対象になってしまう可能性があります。これは規約で明記されていなかったため、来年度以降、明記方法を規約に盛り込むことで検討しています。

・OSOコンテストのハンディー機部門について

これについては昨年も同様のご意見をいただいております。ハンディー機部門は、ジュニア部門と同

様に、従来の部門に併設することで実施可能ではないかと考えており、現在検討中です。「ハンディー機の定義」については、ハンディー機部門を実施している他エリアのコンテスト規約を参考とする予定です。OSOはコンテスト参加中の移動が可能ですので、機動力のある局には楽しめるのではないのでしょうか。

・コンテストナンバーの001形式について

この件につきましては昨年も取り上げましたが、VHFコンテストについては001形式のナンバーを省く方向で検討しております。(OSOは継続いたします。)

他局の状況を把握するために継続を希望されている方もおられますが、コンテストナンバーが長いという声は多く、参加のしやすさという観点から001形式は無くしたいと考えております。

・VHFコンテストのマルチバンド化について

シングルバンド部門を廃止し、以前のようなマルチバンドのみにしたほうが活性化するのでは?とのご提案がありました。過去にはコンテスト参加局数が増大し、各カテゴリー別に競う意味も大きかったのですが、近年は各部門の参加局数の減少から「競争相手がいない」ケースが散見されます。

(今年は新潟県の個人局 50MHz 部門のエントリーがありませんでした。)

これは大変残念なことではありますが、マルチバンドでの参加、上位入賞は、特に初心者には決して容易ではないこと、またシングルバンドに注力して運用される局もおられ、相当の局数を稼いでおられることから、現状ではちょうど良い住み分けがなされていると考えております。当分の間、現状維持の方向で運用してまいります。

・コンテストの開催時間について

本年度は「コンテスト時間が短い」というご意見をいただいております。土曜18時～日曜15時とのご提案です。VHFコンテストでは12時以降にコンディションが上がりそう?なときもあり、微妙な時間帯ですが、他のコンテストの開催時間との兼ね合いもあり、当分の間変更はできないと考えております。開始時刻については検討の余地があるかもしれません。より多くの方のご意見をお待ちしております。

・OSO/VHFコンテストの統合について

両コンテストの参加局数の減少から、このようなご意見もいただいております。両コンテストはそれぞれ異なる開催目的があり、今のところ統合する予定はございません。ただし、将来に向けて良い統合案をいただければ、いずれは総合的に検討せざるを得ない時が来るかもしれません。

・初心者向けなどの部門分けについて

昨年度、同一バンドで電話、電信の異なるモードでの交信を有効とする案を検討しておりましたが、その後、4アマ、初心者の局の参加意欲が減るのではといった反対意見もいただき、この変更案はひとまず取り下げ状態になっています。

さてそれでは、アマチュア無線の「コンテスト」とは、いったい何を競うものなのでしょうか？どんなスポーツも同じですが、それぞれの選手が置かれている条件の中で、ハンディを工夫して乗り越えた上で、一律のルールに則って競うものだと思います。電信（3アマ）にしても、交信技術、設備にしても、それ相応の努力があってこそそのコンテスト入賞であるべきです。

もし4アマの局を基準とした規約にするのであれば、空中線電力を一律20W以下（VHF以上は）に設定しなければなりません。現規約では、3アマ以上に合格し空中線電力を上げることが、勝つために必要不可欠な要素のひとつと行ってよいでしょう。

ただし、規約はすべて一律にするのではなく、状況に応じた「ハンディキャップ」を設けることも必要であり、その加減がたいへん難しいものであります。よって、初心者向けやQR Pの部門など、諸々の配慮がなされた規約は複雑になる傾向があります。

昨年に引き続き、ジュニア部門に参加された局については事実上全員を「入賞」としてしています。ただし、これについては「若者に対して甘すぎる」と言ったご意見もいただいております。出れば何かもらえる、では、青少年の育成にならない由。

コンテスト委員会としては、ジュニア部門と一口に言っても小学生から高校生までの広い範囲であり、家族の免許所持の有無等、条件がかなり異なり一律に勝敗を決められないこと、また、これからのアマチュア無線界を担う若手には「参加することに意義があり」、「参加したという事実を本人に実感してほしい」という思いから、特別に表彰しているものであり、皆様のご理解をいただきたいと思います。

今年の両コンテストでは計7局のジュニア局に参加いただきましたが、そのほとんどが3アマ取得者です。初心者の皆さんも、コンテストは決して「勝敗」だけでなく、自らを高めるための力試しという感覚で、気軽に参加していただきたいと思います。

OSO/VHFコンテストは、より多くの信越管内のアマチュア局に参加いただくため、基本的に初心者向けのコンテストであるべきと考えておりますが、「次のステップへ進める」工夫も規約に含まれるべきと考えております。いわば永遠の課題であります。引き続き皆様からのご意見をお待ちしております。

・電信モードでの交信について

前述のとおり、VHFコンテストにおける電信／電話両交信のカウントという規約変更案は、現在取り下げ状態となっております。しかし、今年もCWによる参加局があり、より多くの交信機会を作りたいという希望から、電信モードでの運用推奨時間を設けたいと考えております。

事実上の規約変更はありませんが、例えば毎正時にCWバンドをワッチしてみると誰かがいるような環境が作れば、コンテストを機会にCWデビューも可能？ではないでしょうか。アイディアの段階ですが、バンド内がより盛り上がる工夫を、今後も考え出していきたいと思っております。

以上です。この後各県主催のパーティー等も開催されます。規約をご確認いただき、また各局お誘い合わせの上、より多くの皆様にご参加いただきたく、重ねてお願いいたします。

また、コンテスト委員会では、私たちとともにコンテスト運営にご協力していただける委員を募集しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

2011年 7月 6日

文責：JROBAQ／西山 浩平（JARL 信越地方本部コンテスト委員長）